柏市水道事業運営審議会会議録

1 開催日時

平成30年7月25日(水) 午後3時00分～5時15分

2 開催場所

柏市千代田一丁目2番32号

柏市水道部2階大会議室

3 出席者

(1) 委員

堀田委員，山田委員，中島委員，阿部委員，三木委員，小宮山委員，清水委員，染谷委員，相田委員，大平委員，裕富委員，三好委員

(2) 事務局

吉川水道事業管理者，荒巻総務課長，添田給水課長，長妻配水課長，宇賀野浄水課長，他

4 議題

(1) 柏市管工事協同組合との災害時及び緊急時等における包括連携協定書等の締結について

(2) 水道料金滞納の提訴について

(3) 債権放棄について

(4) 柏市水道部庁舎再整備について

(5) 下水道部門との組織統合について

(6) その他

5 議事

(1) 柏市管工事協同組合との災害時及び緊急時等における包括連携協定書等の締結について

資料1に沿い総務課橋爪副参事から説明。

質疑

(阿部委員)

応急給水活動業務の委託とは，具体的に何を想定しているのか。

(事務局)

応急給水所を開設するにあたり，特に耐震性貯水槽の蓋開けは水道技術が必要とされるので，水を配る業務も含め管工事組

合に委託して実施するもの。

(堀田委員)

平成23年の協定書と比べ業務が拡大していると思うが、どの部分が拡大しているのか説明してほしい。

(事務局)

応急給水所倉庫内備品点検業務は、新たに加えたもの。他にも、従来は個別に業務委託していたものを協定書に位置付けて一括して実施したものがあり水道メーター関係の業務が該当する。合わせて、官民連携業務も新たにお問い合わせしたもの。

これまでは、災害時の活動についての協定であったが、普段からある程度の管理などを行っていなければ円滑な災害時の対応はできないだろうという観点から緊急の修繕や日常の管理業務を加えている。

(山田委員)

管工事組合は44社が加盟しているとのことだが、本協定での費用負担について詳しく教えてほしい。

(事務局)

メーター交換やそれに伴う漏水修理工事などは、従来から設定している単価により積算し入札を行った。応急給水所倉庫内備品点検業務は新たに実施したものだが、従事時間に応じた労務単価により積算している。また、相談窓口については試行の部分もあるが従事者1名の人件費で積算している。

(三木委員)

水道メーター在庫管理業務は、完全に委託し組合側しか在庫数量の確認をしないものか、市の職員は一切在庫確認を行わないのか。

(事務局)

これまで、毎月10日ごろに市が保管していたメーターの在庫を組合に引き渡していたが、今回は業者から水道メーターが納品されたところから引き渡しまでの管理についても組合に委託して業務の幅を拡大したものの。

(三木委員)

オークションサイトの普及により想定外の物品が盗難にあうケースが増加しているが、相互監視も必要では。

(事務局)

メーターの保管は水源地にて納品時は職員が立ち会う。出庫時の水源地の出入りは鍵の管理を浄水課が行っているため、そこでも盗難防止措置が働くと考えている。

帳簿上の処理について、納品と出庫に係る台帳管理は市職員が行っている。

(2) 水道料金滞納の提訴について

(3) 債権放棄について

給水課添田課長より一括して説明した。

(大平委員)

債権の処理には免除や譲渡などいくつかの方法が考えられ、免除の場合は、債務の履行期限の延長をし、そのうえで所在不明であるとか資産収入状況の調査を経て免除に至るので期間的にも10年以上かかってしまう。したがって、不正の温床にもなりかねない。今回、債権放棄をするに至った事情をお話しいただきたい。

(事務局)

料金の納付が滞っている方には、分納誓約をしてもらい通水しながら納付を継続してもらおうようにしている。水道法の趣旨として資力の有無を前提としておらず、水道水の供給を求められ条件が合えば給水をすることになる。滞納については本人と調整してどのようにしたら料金の支払いができるか考えてもらう。金額的に厳しい場合に、所在が不明となると住民記録がないと追跡困難となる。債務譲渡については、水道部として債権の譲渡についての考え方について内部で議論が必要と考える。将来は実施するかもしれないが、現状はそのような考えは持っていない。

放棄の経緯として、住民記録の追跡を行ったが件数が膨大で全件対応することの費用対効果の問題がある。相続人の特定についても調査権限がない。税務関係の部署からの情報提供も困難である。また、平成11年分の債権を今から回収することで不公平な取り扱いとなる問題もある。

(大平委員)

債権放棄は、決算書にも残るのだが、このことも踏まえたいう
えで債権放棄をするのか。

(事務局)

今回、債権放棄する平成 11 年度からのものは 6 年目を迎える
と不納欠損処理をしてきたものの積み重ねであり、簿外債権
を放棄するもの。現年度の決算には影響はない。29 年度は 23
年度に不納欠損処理したものの。

(三木委員)

マイナンバー制度が導入されたが、柏市水道部ではマイナン
バーを利用した対応を何か考えているか。

また、弁護士委託についてどのような経緯で選任したものか。

(事務局)

マイナンバーを利用した取り扱いは今のところ考えていない。
柏市内に該当するような委託先がないか情報収集をしたが、
候補がなく、実績のある委託先と試行的に契約したものです。

(4) 柏市水道部庁舎再整備について

資料 4 に基づき総務課平井副主幹より説明。

質疑

(堀田委員)

解体設計が予定より時間がかかっているとのことだが、一括
発注の場合、現状行っている実施設計の内容にも影響があると思
うがどうか。

(事務局)

契約当初から解体の設計を先に完了させて解体工事を先行発
注したい旨設計会社に話していたが、解体設計に必要な図面が
提供できないなどの事情もあり、今年度に入り解体設計が先行
して完了しない情勢となった。

(中島委員)

一括のメリットもよく理解できるが、一方で市内業者を大切に
することも念頭においてほしい。

(事務局)

市内業者の参入を意図的に狭くすることではなく、要件を厳
しくする考えはない。

(大平委員)

総費用はどの程度の想定か。予算の確保はめどがついているのか。財源の確保に伴う住民サービスの低下を招くことはないか。

(事務局)

事業費については、概算ながら当初の見込みよりもオーバーしている状況なので設計会社とも詳細を詰めているところ。財源は内部留保を活用して水道料金への転嫁がないようにしたいと考えている。

(5) 下水道部門との組織統合について

資料5に沿い総務課荒巻課長より説明。

質疑

(中島委員)

下水道部門と組織統合して、上水道の私債権と下水道の公債権が併存するが円滑に事務を行えるのか。

(事務局)

会計の根本的な法令の違いは解消されないので、双方の業務が併存することになると思う。債権管理に関しては下水からの委託を受けて水道料金と合わせて下水道料金の徴収をしているので対策などは一緒にやっていくことになる。

(染谷委員)

大規模な災害特に地震の発生が想定されているが、災害時にも上水道と下水道と双方が問題なく機能することを期待している。

(事務局)

地震や大雨や渇水など様々な災害の想定があるが、組織統合により渇水の場合非常時に下水道からの応援がもらえ、大雨の場合は上水道からの職員の応援が得られ易くなる等体制は充実する。大雨対策については市長部局に担当課を設置する予定でそこに非常時には水防本部が置かれることになる。下水道部門の職員はその傘下に入り活動することになる。また上水道の職員はその応援を行う体制が取れると考えている。こうしたことから従来以上に迅速な対応ができるのではないかと。

(堀田委員)

先ほどの説明で課としては上下水道が分かれるが業務としての連携を図るといふ話があり大変重要であると思うが、一方で難しいという話もある。現状で連携が可能と思われるものは何かあるか。

(事務局)

下水道の雨水管の敷設に際しては、必ず水道管の移設工事が伴う。その際に下水道は下水道の職員が実施し水道管は水道の職員が実施するのではあまりにも非効率。一括発注で両方の職員が監督を担えるような人材育成を進められるよう組織の形を柔軟にしている。

人材育成の面で、市役所全体の人事異動は人事課が所管しているが、上下水道両方の知識を兼ね備えた職員を育成できるよう、上下水道局内での異動なども人事課へ提案できればと考えている。

(相田委員)

応急給水活動について、災害時にここに行ったら水を手でできるという情報が載っているマップなどがあればよいと思うがいかがか。

(事務局)

水道だよりを年二回発行しており、そのうち一回は応急給水場所一覧を掲載している。新聞の折り込みで各家庭に配達しているもので、それ以外は近隣センターなどで配布となる。地図には37か所の給水所が掲載されているが、一斉に開設するものではなく災害規模や被害の状況を考慮して開設可能な場所や必要性の高いところから順次開設していくもの。どこの給水所が開設されているかの情報については、広報車、防災無線や市ホームページで随時お知らせしていく。安全かつ確実に水を配れるのは水源地と考えており、次に耐震性貯水槽である。不足分は給水車を出す。他に透析などで水を大量に使用する医療機関には給水車などを出して水を配ることも重要な使命である。

(三木委員)

組織統合をした場合、審議会についても上下水道で統合され

るのか。

(事務局)

まだ決まっていないが、下水道でも審議会を行っており、それぞれ並行して実施することも考えられる。しかし、経営的な観点では組織は統合していくので今後検討していきたい。

組織としては一つに統合して、議題に応じて上水道と下水道の分科会として運営することも考えられる。

(山田委員)

災害対策の話題が出たが、柏市としての災害対策について教えてほしい。

(事務局)

渇水対策について、応急給水体制や貯水槽などの整備を行ってきて、地域的には概ね全市域をカバーしている。期間的には4日間程度の想定をしているものなのでさらなる充実を目指していく。地震対策について、柏市は直接的な被災経験はないが、一昨年の熊本地震の際は職員派遣を実施した。今回の西日本豪雨に際しても機会があれば職員派遣を実施し現場を見てもらい有事の際のシミュレーションができるような人材育成を進めていきたい。要請があれば積極的に派遣をしていきたい。

(6) その他

(小宮山委員)

水道部庁舎の再整備事業に地元業者が多く携われるよう分離発注も考えていただきたい。

(事務局)

災害時には多くの地元業者の方にご協力いただいている。庁舎再整備事業についても地元業者が携われる機会が失われないよう発注したい。

6 傍聴

傍聴者なし